

科目No.	関連講座JK131b	科目名	防疫薬総合管理				副題	身近な生活・環境害虫防除—世界をリードする防疫薬と害虫防除技術—			
連携機関名	日本環境動物昆虫学会	水準	中級	教室定員	-	配信定員	30	講義日時	月曜日17:30~19:30	拠点 (開講機関)	大阪(日本リスクマネージャネットワーク・関西大学 化学生命工学部)後援:日本家庭用殺虫剤工業 会
科目概要	<p>熱帯地域には多くの感染症が流行し、これらが大きな経済的損失をもたらしてさらなる貧困を生み出している。その最大の原因のひとつはマラリアであり、その他にデング熱、日本脳炎、黄熱病などがあり、いずれも蚊が媒介する感染症である。最近の世界のマラリアの感染者数は年間約2億3千万人、死者数はサハラ砂漠以南のアフリカの5歳以下の子供を中心に約62万人と報告されている。主なマラリア対策として、殺虫剤を家屋内に残留処理することやピレスロイド殺虫剤を含有させた蚊帳などの使用により、ベクターである蚊の防除が行われている。また、近年の人々の移動のグローバル化により、特定の地域の熱帯病であったものが、我が国での2014年のデング熱の感染例のように、容易に他地域に拡大する事態も増えている。一方、風土病、熱帯病が減少した先進地域では、人々の快適な生活を維持するために、不快害虫などの防除が不可欠になっている。これらの防除には、ピレスロイドなどの安全性が高い殺虫剤が使用されており、これら薬剤の開発では日本が常に世界をリードしてきた。本講座では、防疫薬・家庭用殺虫剤を用いた害虫防除について、各分野の専門家について、防除の歴史、社会的役割、薬剤の開発、使用技術の改良、安全性の確保および新たな技術などについて解説する。併せてリスクリテラシーの育成のためリスクマネジメントの基礎について学ぶ。</p>										

科目構成	No.	講義	講義概要	講義日	講義場所	取組み	講師	所属
害虫防除の歴史	1	害虫防除の歴史とその役割	害虫防除法の歴史、背景とその役割について紹介する。また、天然殺虫成分をリードとして創製された殺虫成分であるピレスロイドについて概説する。	2024/9/2	関西大+オンライン(Zoom)	森 達哉 (顧問:安部八洲男)	森 達哉	住友化学健康・農業関連事業研究所
害虫の生態と防除	2	衛生、不快害虫、その他の生態とその防除策	感染症を媒介する衛生害虫、気持ち悪い、臭い、刺されると痛いなどの不快害虫、衣服を食害する衣料害虫など(節足動物や軟体動物も含め)の分類・生態・被害状況とその対策について紹介する。	2024/9/9	オンライン(Zoom)		岡本 央	住友化学健康・農業関連事業研究所
家庭用殺虫剤	3	家庭用殺虫剤の製剤の特徴と使い方	家庭用殺虫剤や人体用忌避剤はWHOが感染症媒介害虫対策として推進しているプライマリーヘルスケア(PHC)において重要な役割を担っている。家庭用殺虫剤の歴史、製剤・製品の変遷、並びにそれらの特徴と正しい使い方について概説する。	2024/9/30	オンライン(Zoom)		赤坂隆志	日本家庭用殺虫剤工業会
家庭用殺虫剤	4	家庭用殺虫剤の開発とその背景	過去に上市された製品について、①時代背景②開発の経緯③開発の課題について、幾つかの事例を基に概要を解説し、家庭用殺虫剤の変遷を紹介する。	2024/10/7	オンライン(Zoom)		引土知幸	大日本除虫菊中央研究所
害虫防除剤の開発	5	害虫による被害と防除剤開発の実際	私たちの周囲には、人または人の生活に被害をもたらす色々な虫たちが生息している。それらの被害は多岐に渡っており、その被害防止のために様々な防除剤が開発されている。これら防除剤を開発する上での留意点とポイントを実例を交えて紹介する。	2024/10/21	オンライン(Zoom)		野村美治	アース製薬研究開発本部
害虫の生態と防除	6	害虫の習性を利用した駆除	食品衛生害虫の代表として、飲食店の厨房や一般家庭の台所に出没するゴキブリが挙げられる。また、家屋害虫の代表として、家屋・建造物などの木質部を食害するシロアリが挙げられる。これらの害虫を中心として、害虫の生態、習性を利用した防除法の考え方や実例を紹介する。	2024/10/28	オンライン(Zoom)		田中豊一	(元)ダスキン
害虫防除の実際	7	薬剤による害虫防除の課題とPCOの取り組み	防疫用殺虫剤の歴史と法律による現場防除の課題。また、実際の現場環境の違いによるPCOの駆除業務。防疫用殺虫剤の特長を生かした、各害虫への防除機材の選択。	2024/11/11	オンライン(Zoom)		五十嵐真人	鵬図商事
ベクター防除技術	8	マラリアを防除するオリセットネット(防虫蚊帳)	世界三大感染症の一つであるマラリアへの対策として、オリセットネットをはじめとする殺虫剤を含有した長期残効性防虫蚊帳がマラリア流行地帯に配布され、大きな効果を上げている。オリセットネット開発の経緯、マラリアコントロールの現状、および今後の展望等について解説する。	2024/11/18	オンライン(Zoom)		大橋和典	住友化学健康・農業関連事業研究所
木材害虫	9	木材害虫防除	主として木造建造物の主要害虫であるシロアリや、近年被害が増加しているアメリカカンザイシロアリ、ヒラタキイムシ類について、その生態や被害等状況を紹介する。更に、その防除方法についても解説する。	2024/11/25	オンライン(Zoom)		馬場庸介	住化エンバイロメンタルサイエンス 研究開発本部
製剤とその利用技術	10	家庭・防疫用殺虫剤新規製剤の特徴と使用方法	家庭・防疫薬分野においては、新しい特徴を有する有効成分の発見に伴い、その効能を最大限に発揮するために、今まで各種製剤が提案されてきている。主として殺虫剤における製剤化の意義と、新しい家庭・防疫用殺虫剤製剤に関する基本技術について解説する。	2024/12/2	オンライン(Zoom)		山崎誠司	住化エンバイロメンタルサイエンス 研究開発本部
リスクマネジメントの基礎	11	リスクと便益について学ぶ	リスクについての考え方やリスク評価と便益との関係についての基礎知識を学ぶ。	2024/12/9	関西大+オンライン(Zoom)		古澤啓一	日本リスクマネージャネットワーク
安全性	12	防疫薬の登録と安全性	日本(薬機法、化審法、毒劇法など)をはじめ、米国EPA(FIFRA)やEU((EUBPR)、その他世界各国の防疫薬登録制度について解説する。また、防疫薬を使用する消費者の安全性を担保するために必要なデータと意義、消費者リスクの評価法についても解説する。	2024/12/16	オンライン(Zoom)		宮本太樹	住友化学生活環境事業部
医薬品と環境	13	医薬品による環境汚染を考える	防疫薬とは異なるカテゴリーであるが、私たちの暮らしになくはならないということに関しては共通する「医薬品」が使用後に環境に及ぼす影響を毒性的視点から例示・解説する。また、この問題に対する社会の対応、国際的な動向などを紹介しながらリスク管理のあり方を考える。	2024/12/23	オンライン(Zoom)		東泰好	日本リスクマネージャネットワーク
総合防除	14	防疫薬の今後の方向	人々の生活の都市化や、住宅構造、生活様式などの外部環境の変化や、化学物質の安全性に対する人々の意識の増加などから、防疫薬に対するニーズも変化し、それに対応して防疫薬も変革が必要とされる。ここでは、防疫薬が抱えている今日的問題点と今後の方向について考える。さらに、総合防除(IPM)の考え方について解説する。	2025/1/6	オンライン(Zoom)		安部八洲男	(元)大阪青山大学